

2012年3月期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2012年3月期の業績について】

Q：売上高が予想よりも上振れたのに対し、利益が上振れなかった要因は？

A：外部リソースを活用して増えた業務に対応したことにより、外注費や事務委託費等が増加したため。

Q：過去に外部委託費などの外部リソースの活用が高まった時期には、利益率が顕著に高まったことがあった。今回はそのような現象が見られないのはなぜか。

A：過去に利益率が顕著に高まった時には、外部リソースの活用だけではなく、ソフトウェア部品の販売の好調などの要因が重なっていた。また現在は、得意分野の事業に加えて新規分野の事業拡大を積極化させており、そのためのコスト増も要因となっている。

Q：利益率が上がらないのは、増加する人件費に対し売上高が増えないからではないか？

A：ここ数年、売上高が横ばいで停滞する中、外注費の効率化によるコストコントロールを行ってきた。2012/3期は増収に転じ、2013/3期も増収の見通し。今後、この勢いを維持・加速できるか検証しながら、売上高成長にあわせたリソース計画を検討していく。

Q：2012/3期のSTAR-IV関連のソフトウェア投資額はいくらだった？

A：約90億円程度。

Q：ソフトウェアの償却期間は5年と考えて良い？

A：共同利用型に関しては5年間で定額償却している。

Q：産業分野での事業拡大のための戦略的コストは2012/3期でどれくらいか。

A：約20億円程度。

【2013年3月期の業績予想について】

Q：STAR-IV導入プロジェクトについて、上期・下期の社員稼働率はどうなる？

A：稼働率はかなり高い状況が続いており、それは今後も続くと考えている。現在は開発工程で、この後はテストだが、基本的にはNR I社員の稼働はどの段階も高い。

Q：テスト工程に移っていく時期は？

A：リリースが2013年1月なので、その半年くらい前までには一通りの開発が終わって、テスト工程に入っている必要がある。

Q：2014/3期には作業はピークアウトする？

・本資料は、2012年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします

A：STAR-IV導入以後も、周辺システムへの対応や既存システムの廃止のための対応が必要と考えており、仕事が大きく急減することはないと見ている。

Q：製造・サービス業向けでは、NRIシステムテクノの増分以外でも成長を見込む？

また、新規事業拡大のためのコストなどで利益率が低い状態だが、これはまだ当面続くのか。

A：製造・サービス業向け売上高は、NRIシステムテクノ分を除外してもそれなりに伸びると考えている。利益率については、今後も継続して新規事業を積極的に拡大していく考えなので、NRI全体の利益率と比べたら低くなるだろう。しかし、経験値は積んできているので、新規案件獲得時の利益率を改善していきたい。

Q：NRIシステムテクノのようなM&A案件は今後も出てくるのか？

A：今後も良い案件があれば、やっていきたい。

Q：減価償却費が16億円増える見通しになっているが要因は？

A：新データセンターとSTAR-IV関連が主な増加要因。新データセンターの完成とSTAR-IVの稼働は主に下期であることから、下期の寄与の方が大きいと見ている。

以上

・本資料は、2012年3月期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします